



代表取締役社長 吉川 芳和



平素は格別のご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

ここに第119期（2019年4月1日から2020年3月31日まで）の株主通信をお届けするにあたり、当社の事業概況やその取組みおよび成果等につきまして、ご報告させていただきます。

当期の経営成績について

当連結会計年度におけるわが国経済は、雇用・所得環境の改善が続く中で、各種政策の効果等により、景気は緩やかな回復基調で推移していましたが、第4四半期に入り新型コロナウイルスの感染拡大により、足下で大幅に下押しされており、厳しい状況に転じております。

企業理念

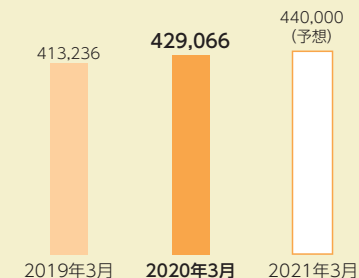
わたしたちは
確かなものづくりを通して
豊かな社会の実現に貢献します

行動指針

- ・ 信頼を築く
- ・ 技を磨き、伝える
- ・ 夢をいだき、挑戦する

連結決算ハイライト

売上高（単位:百万円）



建設業界におきましては、公共投資が底堅く推移し、民間設備投資もおおむね横ばいとなっているものの、労働需給や原材料価格等の動向に注意を要するなど、依然として厳しい経営環境が続いております。

このような環境の中、当社および当社連結子会社（以下「当社グループ」といいます。）は、各社が有する技術の優位性を活かした受注活動やアスファルト合材等の製品販売の強化に努めてまいりました。その結果、当連結会計年度の売上高は4,290億66百万円（前期比3.8%増）となりました。利益につきましては、営業利益は362億27百万円（前期比6.3%減）、経常利益は382億26百万円（前期比2.0%減）、親会社株主に帰属する当期純利益は235億94百万円（前期比7.5%減）となりました。

次期の見通しについて

建設業界におきましては、公共投資は関連予算の執行により、底堅く推移していくことが見込まれるものの、新型コロナウイルスの感染拡大による消費の落ち込みや生産活動の停滞が長期化した場合、民間設備投資が大幅に減少する恐れが

第120期 連結業績予想

億円 前期比

| | |
|-----------------|--------------|
| 売上高 | 4,400 + 2.5% |
| 営業利益 | 410 + 13.2% |
| 経常利益 | 430 + 12.5% |
| 親会社株主に帰属する当期純利益 | 280 + 18.7% |

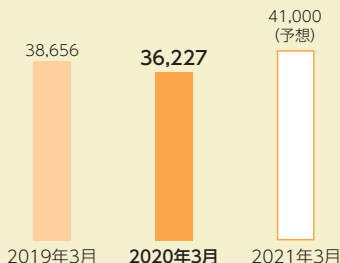
※上記の業績予想は新型コロナウイルス感染症の影響は考慮しておりません。

あり、厳しい経営環境が予想されます。

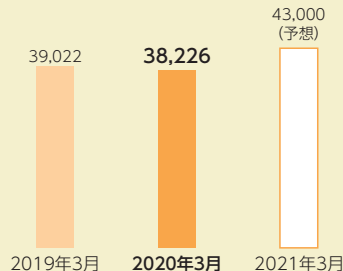
このような環境においても、当社グループは、技術と経営に優れた企業集団として技術力の向上、営業力の強化、原材料価格への適切な対応に努めるほか、生産性の向上とコスト削減を確実に進め、競争力の強化に取り組んでまいります。そして、中長期的な経営ビジョンをもって舗装工事、土木工事、製品販売における収益基盤の一層の強化を進めるとともに、建築、開発、海外事業等の事業収益の安定化に努めてまいります。

株主の皆様におかれましては、今後とも変わらぬご支援ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

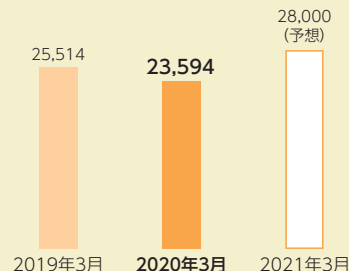
営業利益（単位：百万円）



経常利益（単位：百万円）



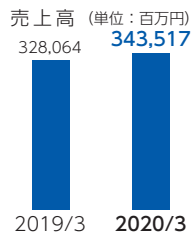
親会社株主に帰属する当期純利益（単位：百万円）



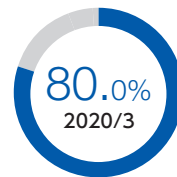
事業別の概況

建設事業

当社グループは建設業法に基づく国土交通大臣許可を受けた建設業、およびこれに関連する事業を行っています。建設事業は当社グループの主要部門であり、「舗装土木事業」「一般土木事業」「建築事業」で構成されています。



売上高構成比



舗装土木事業



事業内容

1934年の設立以来、人や環境への配慮といった視点から、独自の技術を活かした道路舗装土木事業を行ってきました。近年では、交通量の増加や車両の大型化が進み、道路の維持修繕の重要性が一層高まっています。

売上高 1,994億91百万円
前期比 0.7%増 ▲

営業利益 209億72百万円
前期比 2.2%減 ▼

一般土木事業



事業内容

当社グループは、「土」とのかかわりから培ってきたノウハウを基に、各種土木事業の施工を実施してきました。これからも、自然との融和を図り、大地の有効活用により、ゆとりある快適な環境を創出していきます。

売上高 801億96百万円
前期比 24.8%増 ▲

営業利益 58億35百万円
前期比 21.0%増 ▲

建築事業



事業内容

1983年から本格的に建築事業に取り組み、組織力を活かした総合事業に大きな信頼を寄せていただいております。お客様の要望や現場の状況に応じた綿密なコンセプトづくりから施工、メンテナンスまで、あらゆるニーズに満足していただける快適な空間を提供し続けます。

売上高 638億29百万円
前期比 2.9%減 ▼

営業利益 37億90百万円
前期比 33.3%増 ▲



かごしま国体施設整備工事
(自転車競技場H30-2工区)



一般国道37号
室蘭市白鳥大橋舗装補修工事



舗装補修大規模修繕工事
(30-7-湾)



平成30年度
1号笹原山中BP笹原新田地区西舗装工事

主要完成工事

| 発注者 | 工事名 |
|------------------|-------------------------|
| JX不動産株式会社 | (仮称) 札幌環状通東マンション計画 新築工事 |
| 成田国際空港株式会社 | 高速離脱誘導路再編等舗装工事 |
| 国土交通省関東地方整備局 | 東京国際空港A滑走路横断誘導路舗装等工事 |
| 東京都 | 東京体育館(30)改修工事その2 |
| 中日本高速道路株式会社名古屋支社 | 新名神高速道路 菰野舗装工事 |

主要未成工事

| 発注者 | 工事名 |
|-----------------|------------------------------------|
| 国土交通省東北地方整備局 | 築川トンネル舗装工事 |
| 中日本高速道路株式会社金沢支社 | 北陸自動車道 (特定更新等) 富山管内舗装補修工事 (2018年度) |
| 大阪市水道局 | 柴島浄水場上系配水池改良工事 |
| 関西エアポート株式会社 | 2019-2020年度大阪国際空港B滑走路等改修工事 |
| JXTGエネルギー株式会社 | DDプロムナード西条SS セルフ維持改造工事 |

製造・販売事業



事業内容

道路を舗装するために最も多く使用されている材料がアスファルト合材です。当社グループは全国約160ヶ所にアスファルト合材の供給基地を持ち、当社グループの工事で使用するだけでなく、ほかの舗装業者にも販売しています。また、循環型社会形成のために、舗装廃材のリサイクルシステムを構築し、アスファルト舗装廃材を受け入れて、自社工場で再生・再利用しています。

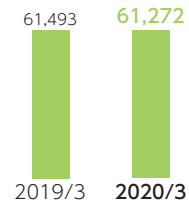
売上高

612億72百万円
前期比 0.4%減 ▼

営業利益

101億50百万円
前期比 4.9%減 ▼

売上高 (単位:百万円)



売上高構成比



開発事業



事業内容

当社グループのネットワークとノウハウを活かし、デベロッパーとして安心・快適な街づくりに取り組んでいます。宅地開発・建物分譲事業、マンション分譲事業 (ル・サンク [Le Cinq] シリーズ)、オリジナル住宅事業 (グラチア [GRATIAE] シリーズ)、不動産賃貸事業 (アーバス [ABAS] シリーズ) などを展開し、都心部や中核都市で、安心・快適に過ごせる商品を提供しています。

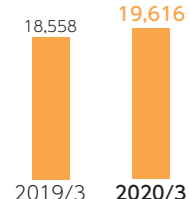
売上高

196億16百万円
前期比 5.7%増 ▲

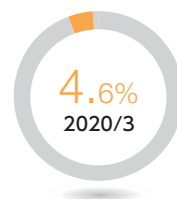
営業利益

27億52百万円
前期比 13.9%減 ▼

売上高 (単位:百万円)



売上高構成比



その他



リゾート事業

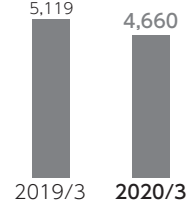
売上高

46億60百万円
前期比 9.0%減 ▼

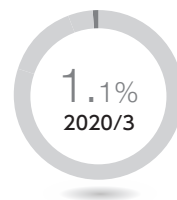
営業利益

7億83百万円
前期比 27.2%増 ▲

売上高 (単位:百万円)



売上高構成比



NIPPOの新技术

エポキシアスファルト舗装

ハードアスコン

重量のある車両の道路舗装として需要が拡大中

工場や物流倉庫の大型車駐車場等に最適



近年、インフラの老朽化が社会問題になっていますが、舗装の補修対策に加え、舗装の長寿命化が期待されています。

これまで製造業や物流業のお客様の工場や倉庫等で、大型貨物自動車が繰り返し走行する箇所や荷下ろし場には、わだち掘れ等の損傷対策として「半たわみ性舗装」等をご提案してきました。しかし、この舗装は養生時間や施工時間が長くなるため、施工時間が短く、わだち掘れへの抵抗性が高い一般的な改質材を用いたアスファルト舗装を使用していましたが、比較的早期にわだち掘れが発生する事例が見受けられました。そのため、施工時間の短より高強度なアスファルト舗装が望まれていました。



道路のわだち掘れの様子



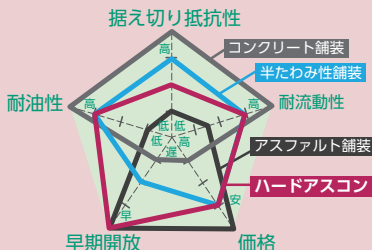
特殊なエポキシ樹脂を投入

傷対策として「半たわみ性舗装」等をご提案してきました。しかし、この舗装は養生時間や施工時間が長くなるため、施工時間が短く、わだち掘れへの抵抗性が高い一般的な改質材を用いたアスファルト舗装を使用していましたが、比較的早期にわだち掘れが発生する事例が見受けられました。そのため、施工時間の短より高強度なアスファルト舗装が望まれていました。



「ハードアスコン」の施工後の様子

「ハードアスコン」の特長



「ハードアスコン」はアスファルト舗装とコンクリート舗装の特長を兼備している

早期の交通開放が可能な特長も



こうしたお客様のお悩みや社会的なニーズにお応えすべく開発したのが「ハードアスコン」です。

アスファルト混合物に特殊な固形のエポキシ樹脂を添加・混合することで、従来のアスファルト舗装と比べより高強度な舗装です。さらに従前のわだち掘れ対応策として採用されることが多い「半たわみ性舗装」と比べて、同程度の強度を持ちながらも価格が同等で早期の交通開放が可能である点をメリットとして有しています。

今後も積極的に普及に努め、年間10万㎡以上の受注拡大を目指してまいります。